

## 〈目次〉

### 【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 呼吸器内科
- ▶▶ 整形外科・リウマチ外科
- ▶▶ 乳腺・内分泌外科
- ▶▶ 入退院支援室
- ▶▶ 鹿児島大学病院「研修センター」の新設

- 鹿大病院を支える若い力
- **病院再開発** 新病棟建築始まりました
- 錦江湾魚ごよみ
- トピックス

## 理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

## 患者さんの権利と責務

### 〈患者さんの権利〉

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

### 〈患者さんの責務〉

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

## 「肺の生活習慣病」……？

## 呼吸器内科

呼吸器内科が担当する疾患は、肺炎、喘息、肺癌、間質性肺疾患など広範囲にわたります。

中でも最近とくに注目されている「肺の生活習慣病」COPD(慢性閉塞性肺疾患)は『喫煙』と強い関連のある病気です。実はCOPDは診断されずに放置されていることがとても多いといわれています。「なんとなく咳や痰が多い」とか「階段を昇るとき息切れする」などたわいもないことが初期症状で、そのまま知らずに放っておくと重症化して体に十分な酸素を取り込めなくなってしまいます。その上この病気は心血管系疾患や肺癌などさまざまな合併症を伴います。できるだけ早期に治療を開始するため専門的な検査・診察が必要です。

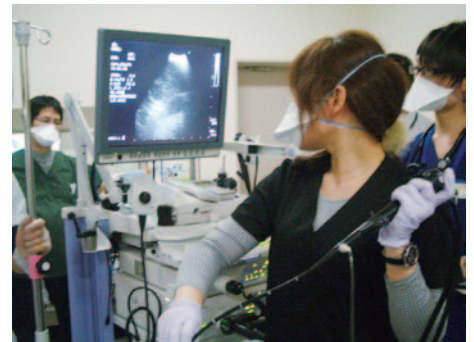
ところで、鹿児島県では昨年からは肺癌CT検診の一部助成がはじまっています。異常を指摘された方の2次検診に当科では先進的な検査を行い診断・治療を行っていきます。なかでも超音波内視鏡は従来外科的処置が必要であった気管支粘膜下や肺末梢の病変からも内視鏡で安全確実に組織を採取できる画期的検査法です。

肺や気管支など呼吸に関することはご相談ください。

<初診日>月・水・金 ※予約制

診療に関する問い合わせ先(内科外来) TEL 099-275-5731

初診予約先(地域医療連携センター) TEL 099-275-5168



超音波気管支鏡によるリンパ節生検  
(EBUS-TBNA)

運動器(ロコモ)の健康を保ち、  
いつまでも健やかに **整形外科・リウマチ外科**

整形外科・リウマチ外科は「運動器」の疾患を扱う診療科です。運動器とは、身体の芯になる骨・関節、これを動かすための筋肉や神経からなり、これらが障害されると、痛みを伴い、自由に動くことができなくなります。これを治し、機能的改善を促す治療をするのが整形外科・リウマチ外科で、腰痛、関節痛、肩こりなどから背骨の病気、骨や筋肉の腫瘍(できもの)までさまざまな病気があります。

運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を「ロコモティブシンドローム」(以下「ロコモ」)と呼んでいます。入院して治療が必要となるロコモ(運動器障害)は50歳以降に多発し、そのピークは70歳代です。

鹿児島大学病院整形外科・リウマチ外科では、変形性関節症、椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症、靭帯断裂などのスポーツ障害といった一般的な疾患から、人工関節の入れ替え、脊髄腫瘍や高度脊柱変形などの難治性脊椎疾患、骨や筋肉の腫瘍などに対する高度な医療まで幅広く取り組んでいます。

<初診日>月・水(午前) ※予約制

診療に関する問い合わせ先(整形外科・リウマチ外科外来) TEL 099-275-5840

初診予約先(地域医療連携センター) TEL 099-275-5168



最新の神経モニタリングシステム  
を導入した顕微鏡手術



宇宙服のような特殊服を着て  
クリーンルームで行う人工関節  
手術

## 乳癌に対する最新外科治療

# 乳腺・内分泌外科

乳房温存療法は、広範囲に癌が広がっている(乳管内進展)場合を除いて、早期乳癌に対する治療として安全性、整容性の面から標準療法として定着しています。鹿児島大学病院乳腺・内分泌外科では、以前より、整容性を考慮した乳房温存手術の実施を開始し、国内外に発信できる手術方法を実践して参りました。

一方、近年ヨーロッパを中心に乳癌手術の中でもOncoplastic Surgeryという概念が世界中に広がりつつあります。Oncoというのは“腫瘍制御＝癌治療”を、plasticというのは“形成”を意味する専門用語です。Oncoplastic Surgeryとは癌の治療をしながら、かつ、乳房の形を重要視した治療法を指します。当科では2006年、乳癌の手術時に、肥大した乳房や下垂した乳房の形成手術を同時に行うこのOncoplastic Surgeryを導入しました。癌の部分とその周囲の組織を安全域として十分に切除できるため、とくに、癌を残さない確実な乳房部分切除が可能となります。患者さんが乳房の変形や乳房喪失感を味わうことがないことがもっとも大きなメリットです。乳房の形や大きさをそろえるために健側の乳房の手術を行いますので、患者さんは左右差のない乳房と新しいボディラインを得ることができます。

癌の進行度や癌の部位のほか、患者さんの全身状態や体型、乳房のサイズなどが関連してきますので、手術の適応・料金については担当医師(喜島祐子)にご相談ください。

<初診日>月～金

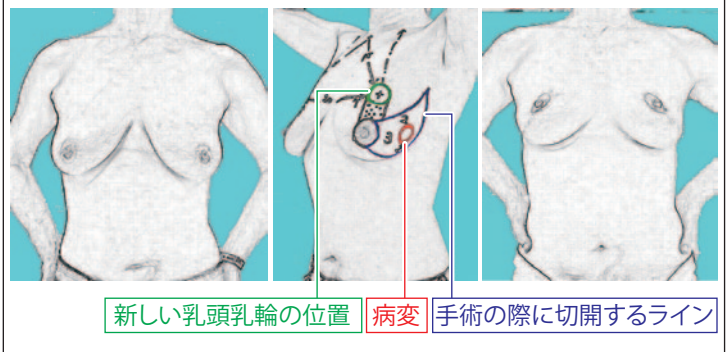
(診療時間帯は曜日によって異なります。地域医療連携センターにお問い合わせください。)

※初診時は紹介先医療施設より地域医療連携センターにお問い合わせの上予約をいただいておりますが、紹介状なしの個人での予約も受け付けています。(予約なしの受診の場合にはお待たせすることもありますので、初診予約の後の受診をお勧めします。)

診療に関する問い合わせ先(乳腺・内分泌外科外来) TEL 099-275-5803

初診予約先(地域医療連携センター) TEL 099-275-5168

左乳癌に対するOncoplastic Surgery: 両側乳房縮小固定術  
手術前 左乳癌の切除前 手術後



## 入退院支援室について

本院では、入院される患者さんに必要な情報提供を行うため、入退院支援室を設置しました。

入退院支援室では、入院生活、入院手続きに係る入院全般に係る説明を行い、医療費、医療福祉に係る相談を事前に把握し、社会福祉士等と連携することにより入院前から切れ目のない支援を計画し、よりよい患者サービスを目指しています。

[対象患者等] 入院予約患者は、予約日に説明を行います。

即日入院、救急入院は、当日または翌日に説明を行います。

[構成] 4つの仕切られたブースを設置し、  
4人の説明、相談要員を配置しています。

[稼働時間] 平日8時30分～17時

[問い合わせ] TEL 099-275-5545



鹿大病院を支える

若い力

—第7回—



臨床技術部  
リハビリテーション部門  
理学療法士 瀬川 真奈美



平行棒を使った介助歩行練習の様子

## 交通事故をきっかけに理学療法士を志す

高校2年の時にバイク事故を起こし、半年ほどリハビリテーションを経験しました。その間、一人の理学療法士の方が私の担当として付いてくれました。親身になって痛みや不安を取り除いてくれるとても頼もしい存在と感じ、理学療法士になりたいと考えるようになりました。専門学校を卒業後、1年半ほど鹿児島市外の病院に勤めていましたが、さまざまな疾患・年代の患者さんのリハビリテーションを勉強できる鹿児島大学病院に移りました。入院患者さんを中心に、常に10人以上の患者さんを担当しています。患者さんが退院後、日常生活を送るために必要な基本動作(寝る、起きる、立つ、歩くなど)ができるよう、運動療法を中心にしています。院内のさまざまな医療職が連携する褥瘡対策チーム、緩和ケアチームのスタッフとしても活動しています。こうした業務のほか、週1回は担当病棟のカンファレンスに参加し、情報共有にも努めています。

## 患者さんとのコミュニケーションが不可欠

患者さんがいらっしやると、最低20分ほどは理学療法士が付ききりでリハビリテーションを実施します。その中で、患者さんの思いや病気に対する不安などを聞くことがあります。こうしたことを一人で抱え込まず、主治医や看護師などと密な情報交換をするよう心がけています。「良くなってほしい」という思いだけでリハビリテーションを押し付けるのではなく、患者さんの話をよく聞き、他の医療職やご家族ともコミュニケーションを図りながら適切なリハビリテーションを行い、患者さんの日常生活への復帰をお手伝いしたいと思っています。患者さんが退院時にお礼を言いに来てくださったり、退院後に元気になった姿を見せに来てくださると本当にうれしいですし、やりがいを感じます。これからも毎日接している患者さんの全身状態、精神状態にも気を配りながら適切なリハビリテーションができるよう、経験を積んでいきたいと考えています。

## TOPICS

病院  
再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行っています。期間中、ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

## 新病棟建築始まりました

新病棟の安全祈願祭・起工式が3月8日に行われ、起工式では、高松病院長と吉田浩己学長の挨拶の後、県知事、県医師会会長、県歯科医師会会長から祝辞が述べられました。新病棟は地上9階建の免震構造で、桜島を眺望できる病室の配置や、個室の増床など、患者さんの療養環境に配慮した設計となっております。また、8階には総合臨床研修センター、屋上階にはヘリポートが整備され、地域医療への貢献と救命救急医療の充実が期待されます。



# 鹿児島大学病院「研修センター」の新設

鹿児島大学病院では、初期研修医のための「研修センター」を、鹿児島大学病院病棟3階を整備し、開設しました。この研修センターには、研修医専用の本棚付きの個々の机及びパソコンを配備した学習室、研修に関する情報提供や情報交換などが行えるラウンジルーム、当直等で使用可能な仮眠室を備えています。

今回の研修センター設置に際しては、鹿児島県からの補助金を活用させて頂いております。平成23年4月には、初期研修医専用の宿泊施設として、レジデントハウスの入居が可能となりました。

このレジデントハウスは、エアコン、机、テレビ、冷蔵庫、ベッド等を備えており、県外からの初期研修希望者も安心して研修を行うことが出来ます。平成25年4月には、現在、大学病院の再開発で建設中の新病棟8階に、現在の研修センターの機能をより一層充実させた総合臨床研修センターを開設する予定です。総合臨床研修センターは、鹿児島大学病院だけではなく、県内の基幹病院等も利用できるような設備としての活用も目指しています。

このように鹿児島大学病院は、鹿児島県、鹿児島県医師会、県内の基幹病院等と一体となって、着実に努力を積み重ねているところです。もちろん、アメニティーの充実だけではなく、研修内容としても、鹿児島県初期臨床研修協議会を中心に、各基幹病院が情報交換を行い、よりよい研修内容を目指して、随時検討を進めています。

今回の研修センター及びレジデントハウスの開設は、今後の鹿児島大学病院での研修がより有意義なものとなるための第一歩です。医学生の皆さんが、充実した研修を鹿児島で行えるよう、これからも、鹿児島県、鹿児島市、医師会ならびに各基幹病院を含むオール鹿児島体制でバックアップしていきます。

## 〈研修センター〉



学習室全景



学習室内のパソコン



ラウンジルーム

## 〈レジデントハウス〉



外観

## 火山灰に耐える

今年(2011年)1月27日15時41分、霧島連山の新燃岳は、52年ぶりの爆発的噴火をしました。新湯温泉近くで、この爆発的噴火を目前にした私は、足がすくむような恐怖を感じました。その2週間後、思わぬ知らせに驚かされました。新燃岳から65kmも離れている宮崎の日南海岸のサンゴが、火山灰の堆積によって死んでいっているということです。

私は、錦江湾のサンゴたちに思いを馳せました。1年前、桜島南東部の海底では、前年から活発に噴火活動を始めた昭和火口からの火山灰で、多くのサンゴたちが死んでいったのです。サンゴには、体の上に積もった土砂を払い落とす能力があります。体から粘液を出し、体の上の土砂を絡めとって落とすのです。しかし、払いのけても払いのけても、連日のように降り注ぐ火山灰は、サンゴの体力を奪い去りました。多くのサンゴたちが、力尽きて死んでいったのです。その悲しい景色に、その場所から足が遠のきました。

宮崎のサンゴの話聞き、私は1年ぶりにその場所を訪れました。サンゴが死滅した無残な海底が広がっているだろうと予想しながら、私は海に入りました。するとどうでしょう。死に絶えたと思われたサンゴの骨格のあちこちから、新しい小さなサンゴが萌え出ているのです。度重なる降灰に耐えて復活し始めたサンゴたち。私は、大きな喜びを感じるとともに、彼らの力強さをとても誇らしく思いました。



カワラサンゴの上に堆積した火山灰を払う。死んだ部分は白骨化している。

## TOPICS

### 鹿児島県と寄附講座「地域医療支援システム学講座」の協定を締結

3月23日、鹿児島県庁で、本院に設置する寄附講座「地域医療支援システム学講座」の協定締結式があり、吉田鹿児島大学長と伊藤鹿児島県知事による協定書への署名が行われました。

同講座は、地域医療提供体制や地域医療に従事する医師の支援について研究することを目的としており、高松病院長が特任教授として就任、研究成果の具体化を図るため、本院が医師派遣の総合相談窓口として設置する「地域医療支援センター」と一体的に運用することになっております。



協定書を手にする吉田学長(左)、高松病院長(中央)と伊藤知事

### 東北地方太平洋沖地震被災地に医療支援チーム派遣(12チーム延94名)

鹿児島大学病院では、先に発生した東北地方太平洋沖地震の被災地宮城県に医療支援チームを派遣しました。これは宮城県から文部科学省に派遣要請があり、同省から各国立大学病院に協力依頼がなされたことを受け派遣するもので、4泊5日の日程で、石巻赤十字病院を拠点に避難所における住民の診療・健康相談活動等を現地の医師・看護師と連携し対応にあたります。

3月25日、医科診療棟外来ホールで出発式が行われ、医師3名、看護師2名、薬剤師1名及び事務職員2名からなる医療支援チームは、高松病院長の激励の言葉を受け出発しました。この後も途切れることなく、4月末まで12チーム(延94名)を派遣することになっています。



高松病院長の激励を受ける医療支援チーム

### 広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

### 鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈21号〉

2011(平成23)年4月発行  
発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会  
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>